

《五つのホルン二重奏曲》(1806年頃。偽作と判断)¹ 水谷 彰良

[偽作と判断] 五つのホルン二重奏曲 *Cinque Duetti per Corno*

作曲 1806年頃 [根拠を欠く]

初演 不明

編成 2ホルン (E♭)

演奏時間 約6分 (全5曲の合計)

自筆楽譜 不明 (第三者による偽作であれば、そもそも自筆楽譜は存在しない)

初版楽譜 Hamburg, N. Simrock, 1961. [Rev., Edmond Leloir] (Gossett-2001が1861年とするのは疑問)

現行版 同上、その複製 (Masters Music, 1993.) 及び Richard Schauer 社

全集版 未成立

構成 五つの小品からなる (ジムロック版に準拠)。

- 1) 変ホ長調、2/2拍子、マルチャ [行進曲]
- 2) 変ホ長調、3/8拍子、メヌエット
- 3) 変ロ長調、3/4拍子、アダージョ・ノン・トロppo
- 4) 変ホ長調、3/4拍子、メヌエット
- 5) 変ホ長調、2/4拍子、アレグロ・モルト

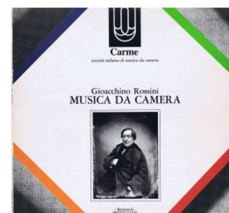
解説

Gossett-2001²に、「5 duets, E♭, E♭, B♭, E♭, E♭, 2 hn」「c.1806」「ed. (Hamburg, 1861.)」として掲げられているが、この作品に関する一次資料は存在せず、1961年にハンブルクのジムロック社 (N. Simrock) が出版した楽譜が唯一の典拠となっている (Gossett-2001が1861年としたのは疑問で、同社による19世紀の出版は確認しえない)。編者エドモン・ルロワール (Edmond Leloir, 1912-2003.) は「ベルギーで見つけたロッシーニの手書き譜に基づく」としたが、原本の存在は未確認で、ロッシーニがボローニャ音楽学校に入学する前の「1806年頃」とするゴセットの推測も根拠が明らかでなく、現在は偽作と見なされている³。

全5曲はどれも単純な形式の小品で、音楽的にもお粗末である。第1曲が《湖の女》(1819年) 第1幕フィナーレの主題と同じであることから、1819年以降に第三者がロッシーニの楽曲の一部を器楽編曲したものがジムロック版の原本になった可能性もあるが、これに類する19世紀の楽譜は確認されたことがない。

推薦ディスク：

- ・ Angelo Borroni / Valerio Maini (Cor) (1986年6月録音、Orizzonte OCL16348 [LP 廃盤])



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシーニ全作品事典(25) ロッシーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。

² *The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収のフィリップ・ゴセット (Philip Gossett) によるロッシーニ作品目録

³ 関連情報は *Works of Giachino Rossini*, vol. 1. Chamber Music without piano, Bärenreiter, 2007., p. XI., n. 1. を参照されたい。